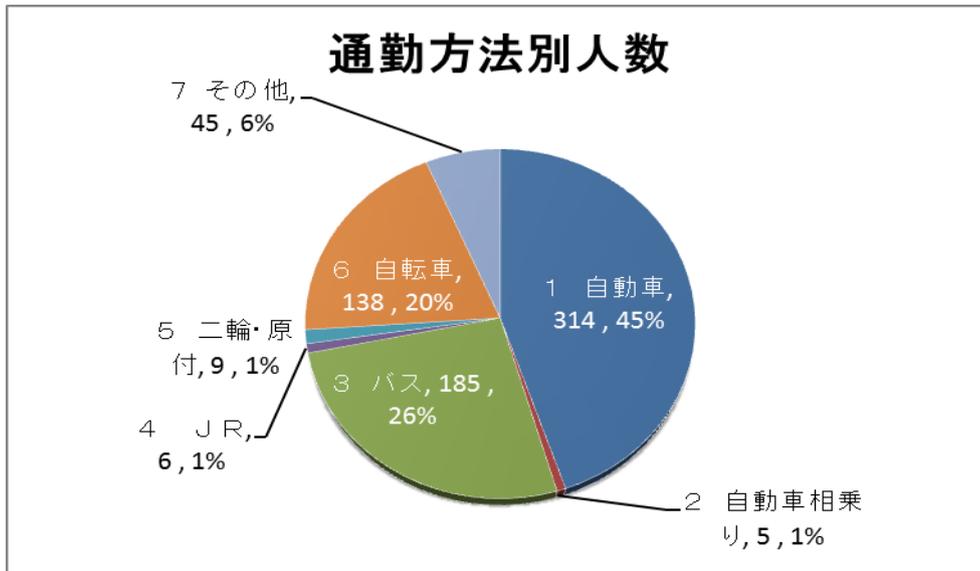


平成27年度 エコ通勤の取組結果について

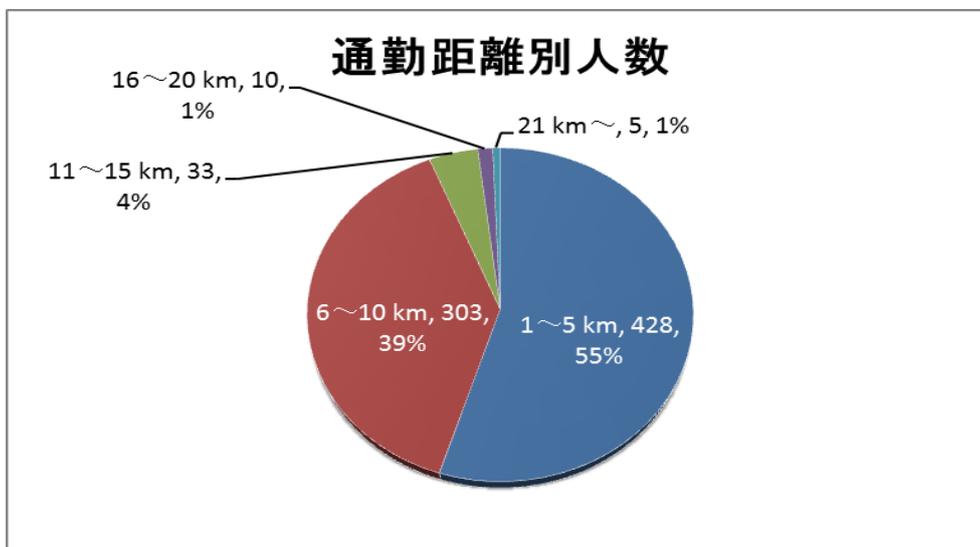
平成27年5月1日から9月30日までの期間で実施した「エコ通勤（平成27年度）」について、取組期間全体の結果を以下のとおり取りまとめた。

【1 基礎情報】

- 取組対象 5,033人 ~ 正職員 2,995人
派遣・再任用職員 69人
臨時職員 694人
嘱託職員 1,275人 ※ H27.4.1現在
- 報告件数 702人（回答率13.9%）
- 職員の通勤状況（取組状況報告者の通勤届出上の状況）



- 職員の通勤距離状況（取組状況報告者の通勤届出上の状況）



【2 エコ通勤の取組状況】

【実施状況の概要】

通勤届出上の通勤方法別に、取組実施による通勤方法の転換状況は次のとおりでした。

- 自動車 自動車からエコ通勤へ切り替えられた日数の割合が10.4%であり、その内6.7%が自転車通勤であった。また、自動車の相乗りに切り替えた割合が1.4%であり、バスに切り替えた割合1.3%を超える結果となった。
- バス バス通勤者が自転車通勤に切り替えた日数の割合が5.9%であり、環境負荷の低い通勤方法への切替の実践を確認できた。一方、2.5%の自動車通勤、1.3%の自動車相乗りも見られ、いくつかの通勤方法が使い分けられている状態である。
- 自転車 自転車通勤が継続されている割合が86.2%であるが、バス6.3%、自動車3.5%の利用も行われている。

● 通勤日数等の集計結果

【通勤届出上の通勤日数(A)】				【取組期間中の通勤状況(B)】		【日数の差】
区分	①人数	割合	①×②=③	④通勤日数	割合	④-③
1 自動車	314	44.7%	29,338	26,598	41.0%	-2,740
2 自動車相乗り	5	0.7%	467	1,091	1.7%	624
3 バス	185	26.4%	17,285	16,529	25.5%	-756
4 J R	6	0.9%	561	592	0.9%	31
5 二輪・原付	9	1.3%	841	901	1.4%	60
6 自転車	138	19.7%	12,894	14,810	22.8%	1,916
7 その他	45	6.4%	4,204	4,295	6.6%	91
合計	702	100.0%	65,590	64,816	100.0%	-
※ 実勤務日数の平均値 ≒		93.43	日 … ②			

〔特記事項〕

- ・「実勤務日数の平均値」は、報告のあった職員の勤務日数の合計を報告のあった職員数で按分した日数である。
- ・「通勤届出上の通勤日数(A)」は、各職員が通勤届どおりの方法で通勤したと仮定した場合の日数を示す。
- ・「取組期間中の通勤状況(B)」は、調査結果を集計し算定した区分別の通勤日数を示す。
- ・「日数の差」は、(A)と(B)の差の日数であり、取組実施による通勤日数の変化を示す。

● 取組実施による通勤方法の切替状況

通勤届出	取組期間中の通勤方法別の通勤割合							合計
	自動車	相乗り	バス	JR	二輪	自転車	その他	
自動車	89.6%	1.4%	1.3%	0.0%	0.3%	6.7%	0.7%	100.0%
相乗り	19.6%	76.0%	2.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	100.0%
バス	2.5%	1.3%	88.8%	0.5%	0.0%	5.9%	1.0%	100.0%
JR	18.2%	2.1%	0.9%	78.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
二輪	0.0%	0.2%	6.0%	0.0%	88.3%	5.5%	0.0%	100.0%
自転車	3.5%	0.5%	6.3%	0.3%	0.1%	86.2%	3.0%	100.0%
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
全体	41.0%	1.7%	25.5%	0.9%	1.4%	22.8%	6.6%	100.0%
通勤届どおりの方法で通勤した場合	43.9%	0.8%	26.5%	0.9%	1.4%	20.1%	6.5%	100.0%

【3 CO₂削減量の試算について】

● CO₂削減量算定の手順

- 1 各職員からの報告内容により、各職員における
 - ① 通勤届出上の通勤方法
 - ② 片道通勤距離
 - ③ 取組による通勤方法別の通勤日数 を把握
- ↓
- 2 通勤届出どおり、実際の通勤状況による各総通勤距離（通勤方法別）を試算
- ↓
- 3 2により試算した各通勤距離と通勤方法別に設定した燃費から、各ガソリン使用量・CO₂排出量を試算
- ↓
- 4 3により算定した両者の差から、エコ通勤による効果を試算
- ↓
- 5 全職員（5,033名）が取組を実行したと仮定した場合の効果を試算

● エコ通勤によるガソリン及びCO₂削減量について

報告のあった職員（702人）の削減量合計

ガソリン削減量 1,538 リットル
CO₂削減量 3,568 kg-CO₂

報告者の取組効果を「見える化」！

- ◇ ガソリンの購入費用の削減額でいうと 約 215,032 円 ※1
- ◇ トドマツ（80年生）の本数でいうと 約 281 本 ※2
- ◇ トドマツの森林面積でいうと 約 0.7 ha ※3
- ◇ 一般的な家庭の電力使用量でいうと 約 580 日分 ※4

※₁ ガソリンの燃料単価を 139.82 円/ℓと設定し試算

※₂ トドマツ（80年生）1本が1年間に吸収するCO₂量を 12.7kg-CO₂と設定し試算

※₃ トドマツ（80年生）が1haあたり410本の森林面積として試算

※₄ 1世帯・1日あたりの電力使用量を 9.04kWh/世帯/日と設定し試算

● 全職員（5,033人）が取組を実施したと仮定すると…

ガソリン削減量 合計 11,026 リットル **CO₂削減量 合計 25,581 kg-CO₂**

全職員の取組効果を「見える化」！

- ◇ ガソリンの購入費用の削減額でいうと 約 1,541,672 円
- ◇ トドマツ（80年生）の本数でいうと 約 2,014 本
- ◇ トドマツの森林面積でいうと 約 4.9 ha
- ◇ 一般的な家庭の電力使用量でいうと 約 4,113 日分

【4 平成27年度取組総括】

庁内のエコ通勤については、通勤時の温室効果ガス削減を主な目的として平成22年度から実施しており、今年度で6年目となります。

多くの職員の皆様にエコ通勤を取り組んでいただき、報告を集計した結果、合計約 3.5 t-CO₂ の削減につながりました。ガソリン代に換算すると、約 21.5 万円の削減となっています。

仮に全職員が取組を実施した場合、約 25.5 t-CO₂、ガソリン代換算だと約 154.1 万円の削減が見込めます。温室効果ガスのさらなる削減のため、より一層の取組推進が望まれるところです。

なお、取組結果報告数は職員全体の 13.9%に留まっている状況です。エコ通勤の取組は平成28年度も実施を予定しており、取組内容の再構築や調査方法の改善等を考えておりますので、取組の推進及び報告数の向上について御協力をお願いします。

【5 自動車通勤者における切替目標の達成状況】

エコ通勤の取組では、通勤時に自動車を利用する職員について、任意で「切替目標日数」を設定し、この目標以上の日数、より低負荷な通勤方法の切り替えを呼びかけています。

各職員からの報告内容を基に、「切替目標日数」の達成状況を以下のとおりとりまとめました。

○ 切替目標達成状況						
対象者：		314 人				
達成率	10km未満		10km以上		合 計	
	人数（人）	割合（％）	人数（人）	割合（％）	人数（人）	割合（％）
100%以上	44	17.4%	10	16.4%	54	17.2%
～99%	2	0.8%	1	1.6%	3	1.0%
～79%	12	4.7%	2	3.3%	14	4.5%
～49%	20	7.9%	4	6.6%	24	7.6%
～19%	40	15.8%	1	1.6%	41	13.1%
切替実施者 小計	118		18		136	
0%	135	53.4%	43	70.5%	178	56.7%
合計	253		61		314	

【達成状況の取りまとめ】

- 片道通勤距離が10km未満については、対象者253人中118人（46.4%）の職員に通勤方法の切り替えを実施いただきました。達成率については、100%以上が17.4%と最も多くなっています。
- 片道通勤距離が10km以上の比較的通勤距離が長い職員については、対象者61人中18人（29.5%）の職員に通勤方法の切り替えを実施いただき、達成率100%以上が16.4%の割合となりました。
- 今回の取組により、合計136人の職員に通勤方法の切り替えを実施いただきました。

今後は、0%の職員を出来るだけ減らし、達成率を向上させる取り組みが必要です。職員の皆様の御協力をよろしくお願いいたします。



- ◇ 目標を設定することで、通勤方法の切替意識が高くなることが伺えます。自ら目標を設定して自動車からの乗り換えを実践してみましょう。